

第 13-14 回

(2015.1.7,
2015.1.14)

総合演習

北村由美准教授（附属図書館）

■概要

- ・各班、持ち時間 30 分（発表 20 分+質疑応答 10 分）で発表を行う。
- ・発表者は、自身の発表の感想を簡単に記入し提出する。
- ・他の受講者は、各班の評価を「発表評価シート」に記入して提出する。
- ・「発表評価シート」は各回で回収し、第 14 回の最後に最高得点の班を発表する。

■第 13 回（2015.1.7）

場 所 : 附属図書館 3 階 共同研究室 5

出席者 : 受講者 16 名、演習補助者 6 名

配布資料 : 発表レジュメ（1 班、2 班分）、「発表評価シート」

14:50-15:25 1 班発表（発表者 3 名）

テーマ 「都市と地方」

タイトル「地場産業を核とする地域活性化」

言葉（地場産業、地域活性化）の定義、および地場産業関連の地域活性化の背景を示した上で、先行研究から具体的な活性化の事例を紹介し、最後に、先行研究で言及されていない点を挙げて新たな研究テーマが提案された。

北村准教授からは、各スライド中でも対応する参考文献を示すこと、言葉での説明だけでなく写真・図版などを入れてもよいことが助言された。

15:25-15:30 1 班の「発表評価シート」記入

15:30-15:55 2 班発表（発表者 4 名）

テーマ 「世界遺産」

タイトル「京都における観光開発に伴う世界遺産の環境・景観保全について」

京都の街並みの保全を中心に、世界遺産を持つ都市そのものの在り方について研究した。その中で、変わりゆく住民生活とのかかわりの重要性が指摘された。

北村准教授からは、指摘した点について具体的にどう研究を進めるのか、テーマやアプローチの方法を示すこと、参考文献リストを付けることが助言された。

15:55-16:00 2 班の「発表評価シート」記入

16:00-16:15 次週の発表班の準備・打合せ

■第14回 (2015.1.14)

場 所 : 附属図書館3階 共同研究室5

出席者 : 受講者15名、演習補助者8名

配布資料 : 発表レジュメ (3班、4班、5班分)、「発表評価シート」

14:45-15:10 3班発表 (発表者3名)

テーマ 「環境問題」

タイトル「原子力発電所に関する問題」

①高レベル放射性廃棄物の処分問題、②福島第一原子力発電所の事故について、それぞれの先行研究をふまえた今後の課題が提示された。

北村准教授からは先行研究の選び方、特に2011年を境に議論が変わってきた点を踏まえる必要があることが指摘された。

15:10-15:40 4班発表 (発表者3名)

テーマ 「環境問題」

タイトル「環境の類型化：琵琶湖疏水を例に」

琵琶湖疏水復活の動きを取り上げ、観光地らしさをアピールしたいいわゆる類型化に陥らないための方法が新たな研究テーマとして提案された。

北村准教授からは、琵琶湖水運復活が観光客を意識するあまり類型化されるのでは、という問題意識があるならば、それを先行研究を挙げて説得する必要があることが指摘された。

15:40-16:00 5班発表 (発表者3名)

テーマ 「世界遺産」

タイトル「富士山に見るエコツーリズム」

登山者が持込むごみによって富士山の景観が損なわれること、ごみ処理にかかる自治体の負担増などが挙げられ、日本および外国でのエコツーリズムの事例が示された。新しい研究テーマ案として、大企業の参入の推進および自治体による地域啓発オリエンテーリングが提案された。

北村准教授からは、富士山でのエコツーリズムはすでにあるのか、また文化的価値とエコツーリズムをどう組み合わせるのか、という質問が出された。

16:00-16:15

- ・1班から5班すべての「発表評価シート」を集計し、最高得点の班を発表した。
- ・聴講者(受講生)が記入した「発表評価シート」を、各班へ配布した。
- ・事務連絡(アンケート、半年後の追跡調査、最終レポート等)

(記録: 櫻井 待子)